

総住宅数は 492,800 戸に上昇 ～空き家率は 18.6%と過去最高に～ 令和5年住宅・土地統計調査 結果の要約(香川県分)

総務省統計局から令和6年9月25日及び令和7年1月29日に公表された令和5年住宅・土地統計調査の香川県分の確報集計から、結果をまとめたものです。

I 調査の概要

住宅・土地統計調査は、住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態等を調査し、住生活関連諸施策の基礎資料を得ることを目的として、昭和23年以来5年ごとに実施され、令和5年は16回目になります。

今回の調査では、全国で約340万戸、うち香川県は約2万6千戸を抽出し、令和5年10月1日現在で総務省統計局が都道府県、市町村を通じて実施しました。

II 結果の要約

1 総住宅数、空き家率

- ・総住宅数は492,800戸で、総世帯数を90,300上回り、5年前に比べ5,100戸(1.0%)増加
- ・空き家数は91,500戸で、3,300戸(3.7%)増加
空き家率(別荘等二次的住宅を含む)は18.6%で、5年前に比べ0.5ポイント上昇し、過去最高を更新
- ・空き家の内訳は、「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」が52.3%で最も多く、総住宅数に占める割合は9.7%となっている(図1)

2 建て方

- ・一戸建は全体の66.5%(全国平均は52.7%)、共同住宅は全体の29.2%(全国平均は44.9%)
一戸建の割合は低下傾向にあるが、共同住宅の割合は一貫して上昇

3 建築の時期

- ・新耐震基準の導入前(昭和55年以前)に建築された住宅は24.4%で、全国の19.8%を4.6ポイント上回っており、建築時期の古い住宅が多く残っている(図2)
- ※耐震基準の導入・改定期間に合わせて、時期を区分したが、集計項目の都合上、完全に一致しない

4 所有の関係

- ・持ち家の割合は69.4%、借家の割合は27.1%で、5年前に比べ持ち家の割合は0.1ポイント増加、借家の割合は1.9ポイント減少

図1 空き家の内訳 —香川県(令和5年)

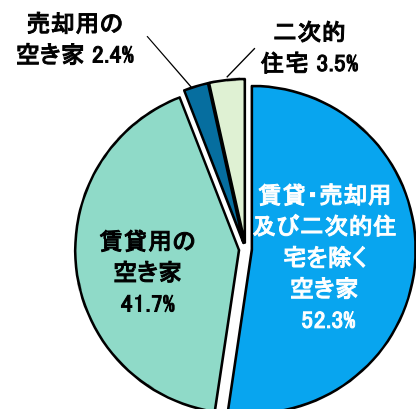
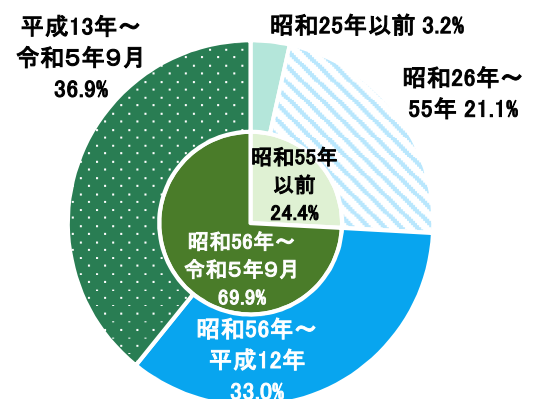
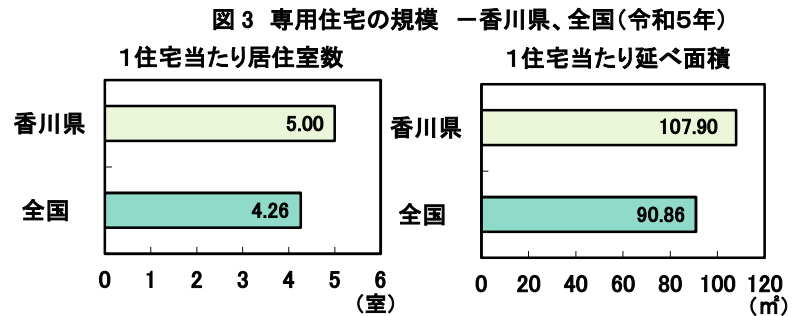


図2 建築の時期別住宅数 —香川県(令和5年)



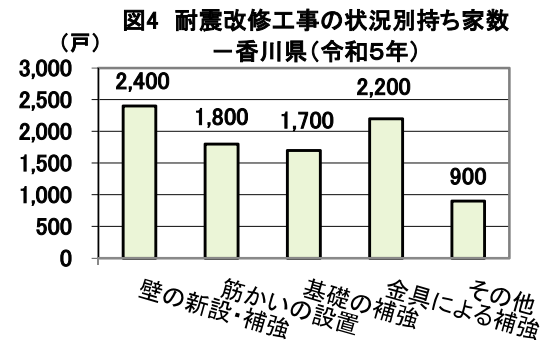
5 専用住宅の規模

- 1 住宅当たりの居住室数は 5.00 室、延べ面積は 107.90 m²で、5 年前に比べ居住室数は 0.18 室減少、延べ面積は 0.42 m²増加 (図 3)



6 令和元年以降の耐震改修工事

- 令和元年以降に耐震改修工事が行われた持ち家は 5,100 戸で、持ち家全体に占める割合は 1.8% (図 4)

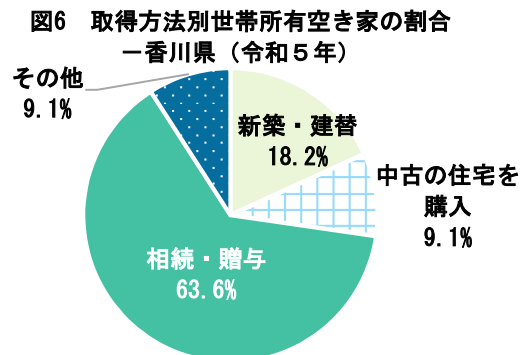
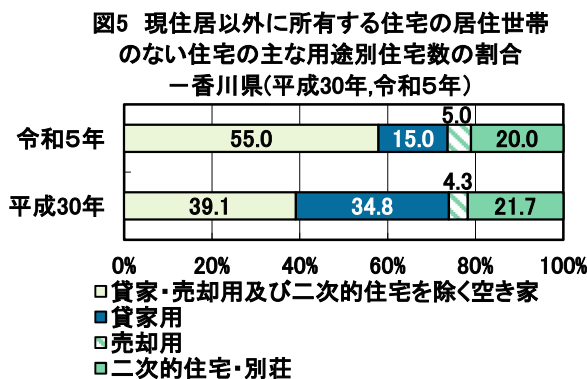


7 高齢者等に配慮した設備

- 高齢者等に配慮した設備 (手すり等) がある住宅の割合は 55.5%で、5 年前に比べ 3.5 ポイント増加
- 設備の内訳をみると、最も高かったのは「手すりがある」住宅で、住宅全体の 45.3%

8 世帯が所有する現住居以外の住宅

- 現住居以外に住宅を所有する世帯は 46,700 世帯、世帯が所有する現住居以外の住宅数は 62,000 戸
- 居住世帯のない住宅を用途別にみると、「貸家・売却用及び二次的住宅を除く空き家」が 55.0%と最多 (図 5)
- 世帯所有空き家について取得方法別に割合をみると、「相続・贈与」が 63.6%と最多 (図 6)



9 全国平均との比較

区 分	香 川 県	全 国 平 均
住宅関係 総住宅数	492,800戸	—
空き家率	18.6%	13.8%
一戸建率	66.5%	52.7%
共同住宅率	29.2%	44.9%
持ち家住宅率	69.4%	60.9%
1住宅当たり居住室数	5.00室	4.26室
1住宅当たり延べ面積	107.90m ²	90.86m ²

注) 緑色部分は、全国平均を上回るものを示す。

Ⅲ 利用上の注意

数値は表章単位未満の位で四捨五入しており、また、総数に不詳を含んでいるため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。